

令和 8 年 8 月 24 日 午前 9 時 40 分受領

令和 8 年 8 月 24 日

日出町議会議長 阿部 真二 様

議員番号・氏名 2 番 今宮 明

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 職員の人員・人材確保について	全国的に自治体職員の採用は厳しくなっている。 特に土木、建築、情報、保健師などの専門職については、人材確保が大きな課題となっている。 第6次日出町総合計画においても、「多様で優秀な人材確保」を掲げ、DX人材や土木技師等の専門職の確保、インターンシップなどによる採用活動、さらに職員が働きやすい職場づくりを進めるとしている。 そこで、将来にわたり安定した行政サービスを提供するため、職員の人員・人材確保についての考え方を問う。	1 現在の職員数と適正な人員配置について ①現在の職員数とその内訳はどうなっているか。 ②定年退職者、普通退職者、採用予定者の今後5年間の計画はどうなっているのか。 ③各課における業務量と職員数のバランスについて、どのような方法で検証しているのか。 ④長期休暇の職員の数と代替職員の考え方は。 2 人材確保、採用活動について ①テストセンター方式の検証結果は。 ②確保が難しい専門職の充足状況と今後の確保対策は。 3 若手職員の育成と定着について ①過去10年間の若手職員の離職状況と離職理由は。 ②人事異動の考え方について、特に若手職員についてどのように考えているか。	



質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
		4 働きやすい職場づくりについて ①時間外勤務の状況はどうなっているか。 ②衛生委員会の開催状況と時間外勤務の改善策は。 ③フレックスタイム制の導入の検討について	
2 日出町の遊休農地の現状と改善策について	農業者の高齢化や後継者不足、農産物価格の低迷、農地の条件など、さまざまな要因によって、耕作されない農地が増加している。 農業委員会の「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」においても、平地では担い手への農地利用の集積・集約化を進める一方、中山間地域では荒廃農地化している地域が多く、遊休農地の発生防止と解消が課題とされている。令和7年3月に町全域を対象とする「地域計画」を策定し、将来、誰がどの農地を利用するのかを示す「目標地図」を作成している。この地域計画を実効性のあるものとし、農地を次世代へ引き継いでいくためにも、遊休農地の現状を正確に把握し、発生防止と再生利用を進める必要があると考える。 そこで、遊休農地の現状と解消に向けての方策について問う。	1 遊休農地の現状について ①現在、遊休農地はどれくらいあるか。過去5年間の面積の推移は。 ②遊休農地のうち、再び耕作可能な農地と、再生が困難な農地は、それぞれどの程度あるか。 ③遊休農地が多くなった要因は何だと考えるか 2 地域計画・目標地図との連携について ①遊休農地のうち、地域計画の目標地図において、将来の利用者が決まっていない農地はどれくらいか。 ②計画を実際の耕作につなげるため、どのような取組みを考えているか。 ③地域計画を定期的に見直し、遊休化した農地や担い手がなくなった農地の取扱いは。 3 遊休農地の再生・有効利用について ①農地中間管理機構を活用しての農地の集積・集約はどれくらい進んでいるか。 ②草刈り、伐木、整地、農道・水路の復旧など、再生に必要な初期費用についての支援は。	

質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
		③新規就農者が遊休農地を借りる場合、農地の再生費用や機械導入などが大きな負担となる。新規就農者と遊休農地をセットとして支援する制度を検討できないか。 4 再生困難土地について ①再生が困難となった農地についての取り扱いは。 ②鳥獣被害や雑草、害虫などによって周辺農地や生活環境に悪影響を及ぼす遊休農地について、所有者への指導や町としての対応をどのように行っているか。 ③地域住民が遊休農地の解消や生活環境維持のために行う草刈りや水路改修などの農地再生につながる取り組みに支援する考えは。	